

東部地区部会 タイ視察ツアー報告書

主催 全国紙管工業組合 東部地区部会
場所 タイ (バンコク)
期間 平成 26 年 2 月 20 日 (木) ~ 2 月 23 日 (日)
参加者 組合員 15 名 (ガイド 1 名)
武川和義 [武川産業(株)]、友部直人 [武川産業(株)]、矢野好幸 [榊竹林紙管 石巻]、
津村正明 [三喜紙業(株)]、佐々木和之 [北海紙管(株) 福島]、松浦寿和 [北海紙管(株) 長岡]、
尾持輝樹 [榊昭和丸筒]、吉田正史 [桜紙管工業(株)]、平手義彦 [丸平紙工(株)]、
平手優一郎 [丸平紙工(株)]、中村英城 [立山製紙(株)]、鈴木陽 [榊鈴木松風堂]、
金谷正章 [日本紙管工業(株)]、大澤浩一郎 [日本化工機材(株)]、柳丈晴 [日本化工機材(株) マル]
江崎英介 [ホクレツツアーズ(株)]

■視察内容

日時 H26 年 2 月 20 日 (木) 0930 ~ 1200

会社名 OIZURU (THAILAND) CO.,LTD. (梱包資材緩衝材組立・倉庫業務)
・山崎 憲司 (Managing Director)
・穂坂 佳孝 (Deputy Managing Director)
・鬼頭 康夫 (Director)
OIZURU CHUGEN Packaging System CO.,LTD. (商社機能)
・林 健司 (General Manager Sales & Marketing Department)

所見

AMATA NAKORN I.E という、巨大な工業団地内にあり、主に梱包用資材のアッセンブリーと、物流倉庫機能をされている。

主な得意先は日本の自動車メーカーや機械メーカーで、お客様の生産拠点が海外に移った為、2002 年にタイに進出された。(工場稼働は 2003 年 4 月より)

工場内は、倉庫スペースと作業スペースに別れており、倉庫スペースは大きなスチールラックが等間隔に何列にも並んで、パレットに積まれた荷物が整頓されて置かれており、荷物の出し入れや管理がしやすいようになっていた。

作業スペースでは、梱包用資材や緩衝材等の組み立てを手作業で手際よく行われており、機械等は整備され、治具等も整頓して置かれており、丁寧な加工指示書や、QC 担当者が常に現場にいるなど、管理面での意識の高さを感じた。

また、顧客の大半を占める日系企業の様々な要望 (高品質、短納期、小ロット) に応えるため、CAD/CAM や大型のサンプルカッターも設備されており、設計やサンプル作成、納期対応など、他社との差別化をされていました。

問題点としては、タイへの企業の進出が多くなっており、人員の確保が難しくなっているようで、作業員等が高い賃金で引き抜かれる事があったり。また、新しい工場や道がいくつもできる過程で小さい水路が埋められてしまい、雨季には水害等も発生する恐れがあるとの事。但し、これらについても、作業員の確保については、給料面だけではなく職場環境を良くすることで流出を防いでおられたり、水害についても工場建設時に土台を高くするなどして対応されている。

※賃金法の改正で作業員の最低賃金が 1 日 300 バーツになり、1 ヶ月で 3~5 万円まで上がったタイの人は真面目だが、品質を安定して良くするためには、きちんと管理やフォローが必要



日 時 H26年2月20日(木) 1330 ~ 1600

会 社 名 SCG Paper (製紙会社) 【 SCG = Siam Cement Group 】
 ・ Jesda Saeliang (Mill Director)
 ・ Kamthorn Ovatnupat (Production Department Manager)
 ・ Piyapong Ngamvimolrat (Production Section Manager)
 日本製紙株式会社 BANGKOK REPRESENTATIVE OFFICE
 ・ 長岡 秀明 (Manager)

所 見

Thai Union Paper Public Company Limited (TUP) のグループ会社で、主にコートボールや、書籍やコピー紙等に使う紙を抄造されている。

SCG Paper だけで年間 約 70,000 t、TUP 全体で 300,000 t / 年を生産されているとの事。ノート用の紙では、グループ全体でタイ国内の 50% のシェア (SCG Paper 5%) を持たれているとの事で、今後は日本 (コクヨ) でも通用するような紙を作りたいとの事でした。抄紙機の上 (建物の中) をハトが飛んでいるなど、品質面では若干不安を感じました。工場 (建物) は、全体的に古いが、きれいにされており、また、備品等の管理では「見える化」や「先入先出」などを徹底して実践されていた。

※日本製紙が SCG Paper の事業に参画され、タイに新しい製紙工場を設立されるとの事



日 時 H26年2月21日(金) 1000 ~ 1100

会 社 名 SINOPAC CO.,LTD. (紙管製造業)

・陳 聰華 KELVIN CHEN (理事)

所 見

製紙や、フィルム、紡織関係の紙管を製造されている紙管メーカー。丸紙管の他に、角紙管やアングルもされており、月間 300～400 t の生産量との事。

製品は品質基準などが日本とは違うためか、これで大丈夫？という感じのものもありましたが、ラングストーンや NC カッター、アングルを製造する機械等は、安全面はさておきシンプルながら「これで十分だなあ」と思える工夫が至る所にあり、たいへん勉強になりました。

今後は角紙管やアングルを使い、紙製パレットなども製造をしていきたいとの事でした。

※ラングストーンは見慣れた形状ではなく、海外（韓国？）製のコピーとの事

※素敵なウェルカムボードを用意して頂いていました。

※社長は台湾出身の方で、奥様が大変おきれいな方でビックリしました

※最近のコンピューター制御された機械屋の為の機械ではなく、もっとシンプルな発想で良い機械ができるのではと感じました。



日 時 H26年2月21(金) 1300～1430

会 社 名 TRI-WALL(THAILAND)LTD. (積層段ボール製造業)
・津田 崇二

所 見

産業用重量物梱包資材の三層段ボールのメーカー

トライウォールで作った箱は、耐水性や緩衝性、防錆性にも優れており、従来の木製品等と比べても、丈夫で、軽量、消毒なども必要なく、リサイクル（紙に戻る）が可能、また作業効率や在庫スペース、コスト面でも優れている。

2010年に東南アジアの拠点として、タイにシート製造工場を建設

生産量は月間 約 2,000 t (タイ工場)

売上はタイ国内向け 75%、海外向け 25%

強化段ボール以外の一般段ボールの生産比率は 50%

顧客は 95%が日系企業

2013年度の売上は、前年度(2012年度)の 50%アップと急増している

タイの企業進出が増えているため、梱包資材としての強化段ボールの需要が増えている

製品のシートや、材料となるライナー等の巻取りが、工場のかんりのスペースを占めており、堆く積まれた巻取り置き場は、まるで森のようでした。



日 時 H26年2月21(金) 1500 ~ 1630

会 社 名 NK-AXIS THAILAND.
NK-AXIS PACKGING CO.,LTD.
・西田 浩二 (Managing Director)

所 見

日本化工機材(株)のタイ工場。

1995年にマレーシアに進出されたが、タイでの需要が増えたため、2001年にタイに「NK-AXIS THAILAND.」を設立、2009年には商社機能を備えた「NK-AXIS PACKGING CO.,LTD.」を設立された。

梱包用のケースや、Lアングル、紙製パレット等の、輸送梱包用資材の製造されている。

タイへの企業進出が増えているので、人が集まりにくくなっている。

足りない人手は外国人ワーカー等で対応されている。賃金等は現地の人と変わらないとの事。

※工場に入る際に女性スタッフの方々が出迎えてくださったのですが、玄関の両側に並ばれての笑顔で「イラッシャイマセ〜」少しびっくりしましたが、こんなサプライズが出来る会社は良い会社なのだろうと感じました。



タイ視察ツアー 報告書

去る、平成 26 年 2 月 20 日～23 日の 4 日間、東部地区部会主催のタイ視察ツアーに参加させて頂きました。

19 日の深夜、タイのデモ報道を気にしつつ寒い日本を出発、不安と緊張、慣れない飛行機にほとんど眠れぬまま、夜明け前のタイに到着。

しかし、着いてみると、デモや暴動などを全然感じさせない平和な雰囲気と、道行く車の大半が日本車だったり、セブンイレブンなどのコンビニがあちこちにあったりと、まだ日本にいてるかのようで少し拍子抜けでしたが、外の暑い空気と、ガレージに並んでいるカラフルなタクシーやバス、移動中の窓から見える、森、田んぼ、池、時々川、それと大きな看板とが繰り返し続く景色で、海外に来たんだなあ実感湧きました。

初日（20 日）は、空港から直接、梱包資材（緩衝材）を製造されている日系企業の「OIZURU (THAILAND) CO.,LTD.」を訪問、現地の状況や、さまざまな苦労や取組について話を伺い、実際に作業をされている現場を見せて頂きました。手作業ながら手際よく丁寧に仕事をされており、指示書やチェックリスト、機械や道具の整備状態からも品質に対する意識の高さを感じました。

午後からは、タイの製紙メーカー「SCG Paper」を訪問、主にコートボールや、コピー用紙、ノート、書籍用等の紙を製造されており、抄紙機や、検査室、備品倉庫などを見せて頂きました。また、日本製紙と共同で作られている新しい工場は見る事ができませんでしたが、先方の期待の高さを窺い知ることができました。

2 日目（21 日）は、午前中、紙管メーカーの「SINOPAC CO.,LTD.」を訪問、手描きのウエルカムボードで歓迎して頂き、タイでの紙管の需要や今後の展開などについて話を伺いました。紙管以外にも角紙管やアングル等も製造されておられ、ラングストンなどの機械も、様々な工夫がしてあり大変勉強になりました。

午後からは、「TRI-WALL(THAILAND)LTD.」を訪問、主に梱包資材などの材料となる、三層の強化段ボールシート（トライウォール）を製造されており、東南アジアの生産拠点として 2010 年に工場を建設され、日系企業のタイの進出などを背景に 2013 年度の売上が前年の 50%増という驚異的な成長をされておられるとの事でした。

その後、日本化工機材(株)のタイ工場「NK-AXIS THAILAND.」を訪問、まず、玄関できれいな女性スタッフの方々に笑顔で迎えて頂き、包装材の組み立てや紙製パレットの製造現場を見せて頂きました。また海外への進出の御苦労なども聞かせて頂きました。

製品はもちろんの事ですが、社内の環境やスタッフの方々とのコミュニケーションがとても良いように感じました。

今回、視察を通じて、工業団地や道路などのインフラ整備を背景に、日系企業の進出が増えており、皆さん仕事量が増えていると仰っていましたが、実際には、最低賃金のアップ（1 日 300 バーツ）や、人手不足（失業率 1 %未満）の問題や、洪水などの水害のリスクなどもある中で、確実に成果を出され、成功されている背景には、現状に妥協しない厳しい品質管理体制と良い社内環境にあるように感じました。

3、4 日目（22・23 日）には、ゴルフ（siam Country Club／Alpine Golf Club）に、観光（水上マーケット、バンコク寺院巡り、アユタヤ遺跡、チャオプラヤークルーズ）と、オフも満喫し、また期間中を通しておいしいタイ料理に舌鼓をうち、タイ式マッサージで疲れを取り、その他いろいろ（?）、楽しくも充実した四日間を、過ごすことができました。

最後に、お忙しい中、工場見学等を快く受け入れて頂いたタイの方々に心から感謝するとともに、この研修会を企画していただいた、団長の武川社長、幹事の大澤社長をはじめ、東部地区部会の皆様方、そして期間中、本当に良くして頂いた参加者の皆様、本当にありがとうございました。

この場を借りてお礼申し上げます。

株式会社鈴木松風堂
鈴木 陽

